

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月7日
【四半期会計期間】	第86期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	橋本総業ホールディングス株式会社
【英訳名】	HASHIMOTO SOGYO HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 橋本 政昭
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋小伝馬町9番9号
【電話番号】	03 - 3665 - 9000
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 財務部長 佐々木 地平
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋小伝馬町9番9号
【電話番号】	03 - 3665 - 9000
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 財務部長 佐々木 地平
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第85期 第2四半期連結 累計期間	第86期 第2四半期連結 累計期間	第85期
会計期間	自2021年 4月1日 至2021年 9月30日	自2022年 4月1日 至2022年 9月30日	自2021年 4月1日 至2022年 3月31日
売上高 (百万円)	65,810	69,842	137,606
経常利益 (百万円)	1,729	1,927	3,424
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,458	1,337	2,407
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,581	1,239	2,253
純資産額 (百万円)	25,622	26,842	25,941
総資産額 (百万円)	81,294	86,498	64,425
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	72.01	66.02	118.88
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	71.72	65.75	118.38
自己資本比率 (%)	31.4	31.0	40.2
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	16,574	16,960	1,936
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	516	1,698	710
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	18,271	20,554	1,566
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	4,806	5,180	3,284

回次	第85期 第2四半期連結 会計期間	第86期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2021年 7月1日 至2021年 9月30日	自2022年 7月1日 至2022年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	31.72	41.77

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 当社は2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第85期の期首に当該株式分割が行われたとして仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による当社グループの事業への影響については、今後も動向を注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な情勢不安のもと、円安・物価高などの不透明な状況が続いています。当建設業界においては、2022年度は感染症対策と経済活動の両立により、民間住宅投資、民間非住宅投資、公共投資において、前年比プラスで推移すると予想され、業界全体としてプラスの中で推移すると見込まれます。

	2022年度見通し		内 訳		
	名目 投資額 (兆円)	対前期 増減率 (%)			
建設投資	63.5	3.6	【民間】 ↗ (5.9%)	【政府】 ↗ (1.7%)	【リフォーム】 ↗ (2.3%)
民間住宅	16.6	3.0	【持家】 ↘ (△4.9%)	【貸家】 ↗ (1.3%)	【分譲】 ↘ (△1.1%)
民間非住宅	17.3	7.3	【事務所】 ↘ (△20.5%)	【工場】 ↗ (27.1%)	【倉庫】 ↗ (1.9%)
政府	21.8	1.7	【建築】 ↗ (1.1%)	【土木】 ↗ (1.8%)	
リフォーム	7.7	2.3	【民間】 ↗ (2.1%)	【政府】 ↗ (2.7%)	

(国土交通省、建設経済研究所資料より当社推定)

このような経済状況のもと、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて、22,073百万円増加(+34.3%)し、86,498百万円となりました。これは主に、電子記録債権の増加等によるものです。負債合計は、前連結会計年度末に比べて、21,172百万円増加(+55.0%)し、59,656百万円となりました。これは主に、短期借入金の増加等によるものです。純資産合計は、前連結会計年度末に比べて、900百万円増加(+3.5%)し、26,842百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等によるものです。

経営成績

連結ベースの売上高は69,842百万円(前年同四半期比+6.1%)、売上総利益は7,638百万円(同+6.9%)となりました。販売費及び一般管理費は6,251百万円(同+5.7%)で、営業利益は1,386百万円(同+12.7%)、営業外損益は541百万円(同+8.3%)計上でき、経常利益は1,927百万円(同+11.4%)となりました。特別損益は、投資有価証券売却益等を特別利益に、また投資有価証券評価損等を特別損失に計上し、その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,337百万円(同+8.3%)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

a. 管材類

前年同四半期と比較して売上高及びセグメント利益は、それぞれ1,301百万円(+6.9%)、356百万円(+14.7%)増加しました。

b. 衛生陶器・金具類

前年同四半期と比較して売上高は、197百万円(+1.0%)増加し、セグメント利益は、74百万円(3.3%)減少しました。

c. 住宅設備機器類

前年同四半期と比較して売上高及びセグメント利益は、それぞれ1,587百万円(+13.9%)、180百万円(+16.6%)増加しました。

d. 空調・ポンプ

前年同四半期と比較して売上高及びセグメント利益は、それぞれ959百万円（+6.7%）、17百万円（+1.3%）増加しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前第2四半期連結会計期間末に比べ374百万円増加し、5,180百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の減少は、16,960百万円（前第2四半期連結累計期間は16,574百万円の減少）となりました。これは主に、売上債権の増加（当第2四半期連結累計期間は17,004百万円、前年同期は15,059百万円）等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は、1,698百万円（前第2四半期連結累計期間は516百万円の減少）となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出（当第2四半期連結累計期間は1,215百万円、前年同期は34百万円）等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の増加は、20,554百万円（前第2四半期連結累計期間は18,271百万円の増加）となりました。これは主に、短期借入金の増加（当第2四半期連結累計期間は+21,436百万円、前年同期は+16,999百万円）等によるものです。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

記載すべき事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループといたしましては、「コロナ対策」「環境エネルギー」「中古住宅流通・リフォーム」「健康・快適」「安全・安心」「地域活性化」「IT技術の活用」といった「7つの分野」を中心に、今後とも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

また、中期的な経営戦略では以下の基本戦略に具体的に取り組んでまいります。

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 3つのフルの追求 - 成長への取組み | |
| フルカバー | - (どこでも) 県別営業体制で全国需要に対応、ハブ+サテライト整備 |
| フルライン | - (何でも) お客様が望む商品は何でもワンストップで対応 |
| フル機能 | - (どんなことでも) 基本7機能、工程9機能、ソリューション9機能の強化 |
| 2. みらい活動 - 業界最大、最良のネットワークへの取組み | |
| みらい会 | - (みんなの会) 4位1体で県別(支店別)に展開 |
| みらい市 | - (みんなの市) 会員相互の販促の場に |
| みらいサービス | - (みんなのサービス) 各種サービスを別会社で展開 |
| 3. 進化活動 - 生産性向上への取組み | |
| しくみ作り | - (みらいプラン) 商流 - 一貫化、物流 - 共同化、情報 - 共有化 |
| 人作り | - (みらいアカデミー) 業界プロの人材育成(リアル+オンデマンド研修) |
| しかけ作り | - (みらいステージ) ITの活用、5S、見える化、チーム活動、ハイブリッド化 |

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,000,000
計	35,000,000

(注) 2022年7月28日開催の取締役会決議により、2022年10月1日付で株式分割に伴う定款の変更が行われ、発行可能株式総数は35,000,000株増加し、70,000,000株となっております。

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,646,526	21,293,052	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100 株であります。
計	10,646,526	21,293,052	-	-

(注) 2022年7月28日開催の取締役会決議により、2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は10,646,526株増加し、21,293,052株となっております。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	-	10,646,526	-	542	-	434

(注) 2022年7月28日開催の取締役会決議により、2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行い、発行済株式総数は10,646,526株増加し、21,293,052株となっております。

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
有限会社ハット企画	東京都世田谷区代沢3-6-15	2,565	25.17
橋本総業従業員持株会	東京都中央区日本橋小伝馬町9-9	695	6.83
橋本総業取引先持株会	東京都中央区日本橋小伝馬町9-9	572	5.61
日本スタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	415	4.07
橋本総業得意先持株会	東京都中央区日本橋小伝馬町9-9	354	3.48
橋本 政昭	東京都新宿区	281	2.76
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	272	2.67
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	242	2.37
株式会社日本カストディ銀行 (金銭信託課税口)	東京都中央区晴海1-8-12	228	2.24
株式会社小泉	東京都杉並区荻窪4-32-5	160	1.57
計	-	5,788	56.78

- (注) 1. 当社は、自己株式を451千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。なお、「株式給付信託」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する株主名簿上の当社株56千株については、自己株式に含めておりません。
2. 有限会社ハット企画は当社の代表取締役社長及び二親等以内の血族が議決権の100%を所有している会社であります。
3. 2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、上記所有株式数については、当該分割前の所有株式数を記載しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 508,000	563	(注)
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,090,700	100,907	-
単元未満株式	普通株式 47,826	-	-
発行済株式総数	10,646,526	-	-
総株主の議決権	-	101,470	-

- (注) 1. 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式が56,303株含まれております。
2. 2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、上記所有株式数については、当該分割前の所有株式数を記載しております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
橋本総業ホール ディングス株式会 社	東京都中央区日本 橋小伝馬町9-9	451,700	56,300	508,000	4.77
計	-	451,700	56,300	508,000	4.77

(注) 1. 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
「株式給付信託(J-E S O P)」制度 の信託財産として拠出	株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8-12

- 自己株式は、2022年7月25日に実施した譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分により、5,279株減少しました。
- 2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、上記所有株式数については、当該分割前の所有株式数を記載しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,308	5,180
受取手形及び売掛金	23,928	31,273
電子記録債権	3,515	13,175
商品	7,335	8,679
未成工事支出金	281	466
未収還付法人税等	1	148
その他	1,813	2,263
貸倒引当金	27	34
流動資産合計	40,157	61,154
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,694	5,730
減価償却累計額	2,849	2,952
建物及び構築物(純額)	2,845	2,778
機械装置及び運搬具	225	226
減価償却累計額	158	163
機械装置及び運搬具(純額)	67	62
土地	8,948	8,952
建設仮勘定	20	38
その他	1,149	1,157
減価償却累計額	863	899
その他(純額)	285	257
有形固定資産合計	12,167	12,090
無形固定資産		
その他	388	576
無形固定資産合計	388	576
投資その他の資産		
投資有価証券	5,964	6,582
長期貸付金	329	321
保険積立金	4,350	4,406
敷金及び保証金	357	356
退職給付に係る資産	344	357
繰延税金資産	139	139
その他	270	555
貸倒引当金	44	42
投資その他の資産合計	11,713	12,677
固定資産合計	24,268	25,344
資産合計	64,425	86,498

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,425	14,831
電子記録債務	9,308	10,340
短期借入金	3,928	25,365
1年内返済予定の長期借入金	1,021	1,031
未払法人税等	842	840
未成工事受入金	179	345
預り金	87	88
賞与引当金	473	497
その他	993	695
流動負債合計	32,261	54,035
固定負債		
長期借入金	3,204	2,669
繰延税金負債	1,534	1,479
再評価に係る繰延税金負債	316	316
役員退職慰労引当金	79	82
退職給付に係る負債	124	127
預り保証金	735	720
その他	228	224
固定負債合計	6,223	5,621
負債合計	38,484	59,656
純資産の部		
株主資本		
資本金	542	542
資本剰余金	466	475
利益剰余金	23,773	24,756
自己株式	512	504
株主資本合計	24,270	25,269
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,281	1,179
土地再評価差額金	314	314
退職給付に係る調整累計額	4	7
その他の包括利益累計額合計	1,600	1,502
新株予約権	49	49
非支配株主持分	20	19
純資産合計	25,941	26,842
負債純資産合計	64,425	86,498

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	65,810	69,842
売上原価	58,664	62,204
売上総利益	7,146	7,638
販売費及び一般管理費	5,916	6,251
営業利益	1,229	1,386
営業外収益		
受取利息	10	8
受取配当金	90	101
仕入割引	395	401
その他	62	83
営業外収益合計	559	596
営業外費用		
支払利息	19	20
手形売却損	2	2
営業外手数料	22	19
その他	14	12
営業外費用合計	59	54
経常利益	1,729	1,927
特別利益		
固定資産売却益	465	-
投資有価証券売却益	19	108
特別利益合計	485	108
特別損失		
固定資産除却損	14	0
投資有価証券売却損	-	0
投資有価証券評価損	-	52
その他	0	-
特別損失合計	14	53
税金等調整前四半期純利益	2,200	1,982
法人税等	741	644
四半期純利益	1,459	1,338
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,458	1,337

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,459	1,338
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	110	101
退職給付に係る調整額	11	2
その他の包括利益合計	122	98
四半期包括利益	1,581	1,239
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,580	1,239
非支配株主に係る四半期包括利益	1	0

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,200	1,982
減価償却費	189	195
のれん償却額	12	-
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	29	7
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	5	3
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	3	2
貸倒引当金の増減額(は減少)	2	5
賞与引当金の増減額(は減少)	1	23
受取利息及び受取配当金	101	110
支払利息	19	20
手形売却損	2	2
投資有価証券売却損益(は益)	19	108
投資有価証券評価損益(は益)	-	52
売上債権の増減額(は増加)	15,059	17,004
棚卸資産の増減額(は増加)	867	1,529
仕入債務の増減額(は減少)	2,238	428
有形固定資産売却損益(は益)	465	-
その他	194	191
小計	16,148	16,235
利息及び配当金の受取額	79	62
利息の支払額	22	25
法人税等の支払額	582	771
法人税等の還付額	100	10
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,574	16,960
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	20	24
有形固定資産の取得による支出	1,816	98
有形固定資産の売却による収入	1,750	-
投資有価証券の取得による支出	34	1,215
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	152	515
出資金の払込による支出	0	300
出資金の回収による収入	22	-
ソフトウェアの取得による支出	66	222
保険積立金の積立による支出	339	356
保険積立金の解約による収入	12	304
短期貸付金の増減額(は増加)	265	362
長期貸付けによる支出	0	0
長期貸付金の回収による収入	49	12
敷金及び保証金の差入による支出	7	1
敷金及び保証金の回収による収入	6	2
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	516	1,698
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	16,999	21,436
長期借入れによる収入	2,320	-
長期借入金の返済による支出	720	525
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	323	353
その他	4	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,271	20,554
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,180	1,896
現金及び現金同等物の期首残高	3,616	3,284
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	9	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,806	5,180

【注記事項】

（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

連結会社以外の会社の仕入債務に対して、次のとおり連帯保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
㈱福知商会	49百万円	44百万円
(注) 茨城県中小企業再生支援協議会主導で再生中の㈱福知商会に対する支援の一環として、連帯保証を行っております。		

2. 受取手形割引高

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
受取手形割引高	284百万円	- 百万円
営業外受取手形割引高	20	-

3. 電子記録債権割引高

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
電子記録債権割引高	1,499百万円	- 百万円
営業外電子記録債権割引高	5	-

4. 手形債権流動化に伴う買戻義務額

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
	1,614百万円	- 百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
給与手当	2,181百万円	2,252百万円
貸倒引当金繰入額	3	6
賞与引当金繰入額	458	495
退職給付費用	167	162

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金	4,830百万円	5,180百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	24	-
現金及び現金同等物	4,806	5,180

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月7日 取締役会(注)	普通株式	323	32円00銭	2021年3月31日	2021年6月14日	利益剰余金

(注) 株式給付信託の導入に伴い、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式62,203株について、当社の自己株式とする会計処理を行っているため、普通株式に関する配当金の総額の計算より、1百万円を除いております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月27日 取締役会(注)	普通株式	354	35円00銭	2021年9月30日	2021年12月7日	利益剰余金

(注) 株式給付信託の導入に伴い、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式59,703株について、当社の自己株式とする会計処理を行っているため、普通株式に関する配当金の総額の計算より、2百万円を除いております。

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月11日 取締役会(注)	普通株式	354	35円00銭	2022年3月31日	2022年6月14日	利益剰余金

(注) 株式給付信託の導入に伴い、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式59,303株について、当社の自己株式とする会計処理を行っているため、普通株式に関する配当金の総額の計算より、2百万円を除いております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月31日 取締役会(注)	普通株式	405	40円00銭	2022年9月30日	2022年12月6日	利益剰余金

(注) 1. 株式給付信託の導入に伴い、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式56,303株について、当社の自己株式とする会計処理を行っているため、普通株式に関する配当金の総額の計算より、2百万円を除いております。

2. 2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式分割前の金額を記載しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計
	管材類	衛生陶器・ 金具類	住宅設備 機器類	空調・ポンプ	計		
売上高							
顧客との契約か ら生じる収益	18,898	20,329	11,431	14,265	64,925	781	65,707
その他の収益	-	-	-	-	-	103	103
計	18,898	20,329	11,431	14,265	64,925	884	65,810
セグメント利益 (注)2	2,428	2,234	1,085	1,329	7,078	67	7,146

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流受託、情報システム、不動産賃貸及び軌道関係機器販売等の事業を含んでおります。また、セグメント別に把握することが困難な売上値引き(130百万円)及び売上割引(258百万円)を控除しております。

2. 販売費及び一般管理費をセグメント別に把握することが困難である為、セグメント利益は売上総利益であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,078
「その他」の区分の利益	67
販売費及び一般管理費	5,916
四半期連結財務諸表の営業利益	1,229

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)1	合計
	管材類	衛生陶器・ 金具類	住宅設備 機器類	空調・ポンプ	計		
売上高							
顧客との契約か ら生じる収益	20,200	20,527	13,019	15,224	68,971	767	69,738
その他の収益	-	-	-	-	-	104	104
計	20,200	20,527	13,019	15,224	68,971	871	69,842
セグメント利益 (注)2	2,785	2,160	1,266	1,346	7,559	79	7,638

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流受託、情報システム、不動産賃貸及び軌道関係機器販売等の事業を含んでおります。また、セグメント別に把握することが困難な売上値引き（113百万円）及び売上割引（278百万円）を控除しております。

2. 販売費及び一般管理費をセグメント別に把握することが困難である為、セグメント利益は売上総利益であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（百万円）

利益	金額
報告セグメント計	7,559
「その他」の区分の利益	79
販売費及び一般管理費	6,251
四半期連結財務諸表の営業利益	1,386

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	72円01銭	66円02銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,458	1,337
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,458	1,337
普通株式の期中平均株式数(千株)	20,250	20,264
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	71円72銭	65円75銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	84	84
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 1. 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間124千株、当第2四半期連結累計期間118千株)。

2. 当社は、2022年7月28日開催の取締役会の決議に基づき、2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

(株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更)

当社は、2022年7月28日開催の取締役会に基づき、2022年10月1日付で株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行っております。

1. 株式分割について

(1) 株式分割の目的

投資単位当たりの金額を引き下げ、投資家層に拡大と当社株式の流動性の向上を図ることを目的としております。

(2) 株式分割の方法

2022年9月30日を基準日として、同日の最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する当社普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

(3) 分割により増加する株式数

株式の分割前の発行済株式数	10,646,526株
株式の分割により増加する株式数	10,646,526株
株式の分割後の発行済株式数	21,293,052株
株式分割後の発行可能株式総数	70,000,000株

(4) 分割の日程

基準日公告日	2022年9月15日(木)
基準日	2022年9月30日(金)
効力発生日	2022年10月1日(土)

(5) 1株当たり情報に及ぼす影響

1株当たり情報に及ぼす影響については、当該箇所に記載しております。

2. 定款の一部変更について

(1) 定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2022年10月1日を効力発生日として、当社定款の一部を変更いたしました。

(2) 変更内容

変更内容は以下のとおりです。(下線部分に変更箇所)

現行定款	変更案
第6条(発行可能株式総数) 当社の発行可能株式総数は、 <u>3,500万株</u> とする。	第6条(発行可能株式総数) 当社の発行可能株式総数は、 <u>7,000万株</u> とする。

(3) 定款変更の日程

効力発生日 2022年10月1日(土)

2【その他】

2022年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議しました。

(イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・・・407百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・・・40円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・2022年12月6日

(注) 1. 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

2. 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)に対する配当金2百万円を含んでおります。

3. 2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「1株当たりの金額」につきましては、当該株式分割前の株式に対する金額を記載しております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月4日

橋本総業ホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 中井 修
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 細矢 聡
業務執行社員**監査人の結論**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている橋本総業ホールディングス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、橋本総業ホールディングス株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。